

会 議 録

平成 29 年度 コンソーシアム本会議

開催年月日・召集時刻 平成 29 年 9 月 4 日 午後 13 時 30 分

開催場所 和光市役所 502 会議室

開 会 時 刻 午後 13 時 30 分

閉 会 時 刻 午後 15 時 00 分

出席委員

事 務 局

和光市長	
保健福祉部次長兼健康保険医療課長	大野 孝治
健康保険医療課長補佐	渡部 剛
健康保険医療課副主幹	
兼保健センター所長	牧田 いづみ
健康保険医療課統括主査	梶原 絵里
地域包括ケア課管理栄養士	吉田 智子
健康保険医療課管理栄養士	佐藤 由紀子

欠席委員

備考

【庶務】
健康保険医療課 前木場 貴代

発言者	会 議 内 容
事務局	<p>本日は、お忙しい中、多数の方に、ご出席していただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>ただ今より、食育推進コンソーシアム発足式を開会いたします。本日、司会をつとめさせていただきます、健康保険医療課長 大野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>当市では、食育推進計画のもと、食育に関する様々な取組を実施しております。そのような中で、近年、生活習慣病、メタボリックシンドロームの増加が健康面での問題となっており、その対策として食育の取組が重要視されているところです。そこで、当市では、第二次食育推進計画において、ライフステージに合わせた食育の推進を図るとともに、市民の健康の度合いに合わせた食育の推進が必要であると、基本方針に位置づけたところです。</p> <p>一方で、市内の各事業者、関係団体の皆様におかれましては、それぞれの努力のもとで、各自の食育の取組を実施されております。</p> <p>そこで、行政だけではなく、事業者、関係団体、相談機関の皆さまが、食育に関する課題を共通認識し、連携した上で、地域一体型の食育を推進していく体制が必要であると検討してきたところでございます。</p> <p>本日までに、2回の準備会を経て、現状の課題や市が推進していきたいこと、コンソーシアムにおける趣旨などを説明させていただき、多くの方にご賛同いただいた上で、本日「食育推進コンソーシアム会議」を立ち上げることができました。</p> <p>この場をお借りしまして、改めてお礼を申し上げます。誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、まず、発足式の次第に従いまして進行させていただきます。</p> <p>はじめに、松本市長から、ご挨拶申し上げます。</p> <p>松本市長お願いします。</p>
松本市長	<p>皆様、こんにちは。本日はお忙しい中食育推進コンソーシアムの発足式、第一回の会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。またこれまでも準備会につきましては、皆様にご指導いただく中でこの日を迎えられることを心から嬉しく思います。さて今お話が担当からありましたが、全国的に食生活を変えていくことで国民の健康を守っていこうということが大きな課題となっています。そもそも健康の定義については、例えばWHOとか色々ありますけれど、自分</p>

達が何とかできるリスクというものに一人ひとりがちゃんと向き合っていけば大きな健康増進ができるはずだということが健康づくりの施策に対する大前提であります。一方でちょっと古いですけど、「わかっちゃいるけどやめられない」という言葉があります。たばこもそうですし、あるいは過度の飲酒そうです。ましてや生活習慣というのは非常にでき上がってきているものですので、難しい課題であります。特に今、食事といっても家庭での食事だけで1年間ほとんど終わるという方は、和光市においては非常に少ないと思います。中食・外食とよく言われますが、外食もあればお持ち帰りもあるという中で、総合的に課題に取り組んでいくことで地域の方々の健康をどう守っていくのかというのがこのコンソーシアムのミソだと思っています。また一方で、このコンソーシアムの中で取り組んで成果を出していくことが、実は例えば事業者の皆様にも新たな価値を見出すチャンスとなるかもしれません。そこにうまく持っていくことができれば、和光から、もしかしたら全国にそういった新たな価値を発信できるかもしれない、そんな大きな思いで私どもは取り組んでいきたいと思っています。

今日は残念ながら外食の方はおられないですけども、例えば、私仕事柄、よく宴会の席に行くのですが、どうしても2品、3品多いんですね。こうしたことも皆で取組めば何とかなるんじゃないかと思っています。あるいは、例えば買ってくる事が多くなりがちな家庭も和光市の場合多いです。共働きも家庭も多いですし、核家族も多いですから。そうすると自分達で作るのものは気をつけていても買ってくるものがもしかしたらカロリーが高いかもしれないし、塩分が多いかもしれない。そのところを地域ぐるみで取組んでいけばおそらく地域の方に健康に大きく寄与することになると確信している訳であります。

実は私も毎年医師から「あと1センチで指導するよ」と言われているお腹でございます。栄養士は笑っていますけど、これはほんとに笑い事なんだけど、笑い事ではなく、私も健康に長生きしたいですので、色々な誘惑もある中でいかにその辺りの折り合いをつけるために、これからの取組と成果に、私も1人の市民としても期待をしております。そして何よりも、市としては市民の健康を守るために全力で取り組み、大きな足がかりにしたいと思っています。皆様方の忌憚ない議論とそして具体的な取組をお願いいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

事務局

ありがとうございました。

それでは、ここで、本日の出席者を紹介申し上げます。まず、事業関係者の皆さまをご紹介させていただきます。なお、肩書

(役職) は省略させていただきます。

- ・セブンイレブン 和光新倉店 岡崎様
- ・いなげや 和光新倉店 酒巻様
- ・株式会社イトーヨーカドー 和光店 遠藤様
- ・和光市食文化研究会 加藤様
- ・農業後継者倶楽部 並木様
- ・オリジン東秀株式会社 赤羽様
- ・有限会社 池田物産 池田様
- ・駅前商店 ひまわり 石田様
- ・ぽけっとステーション 山口様
- ・わこう暮らしの生き生きサービスプラザ 塩谷様
- ・北地域包括支援センター 西山様
- ・北第二地域包括支援センター 川辺様
- ・中央地域包括支援センター 川淵様
- ・中央第二地域包括支援センター 岡崎様
- ・南地域包括支援センター 岩田様
- ・北子育て世代包括支援センター 桜井様
- ・北第二子育て世代包括支援センター 水澤様
- ・南子育て世代包括支援センター 大内様
- ・すてっぷ 石川様
- ・すたんど あっぷ和光 小川様
- ・高齢者福祉センター“ゆうゆう” 山勢様
- ・生活介護施設“ゆめちか” 林様
- ・和光福祉会(福祉の里) 井元様

そして、市役所における食育に関する関係課として、長寿あんしん課、社会援護課、保育サポート課、市民活動推進課、学校教育課、保育施設課の職員です。

続きまして、事務局側の紹介をいたします。

- ・健康保険医療課長補佐 渡部 剛
- ・健康保険医療保健センター所長 牧田 いづみ
- ・健康保険医療課統括主査 梶原 絵里
- ・健康保険医療課管理栄養士 佐藤 由紀子
- ・地域包括ケア課管理栄養士 吉田 智子
- ・健康保険医療課大野でございます。

なお本日保健福祉部長東内、そして地域包括ケア課長阿部につきましては所用がございまして、出席できませんことをご報告させていた

	<p>できます。</p> <p>以上、出席者のご紹介をさせていただきました。</p> <p>以上をもちまして、食育推進コンソーシアム発足式を終了いたします。</p> <p>引き続き、第1回会議を開催させていただきます。</p> <p>なお、松本市長につきましては、他の公務のため、これにて退席させていただきます。</p> <p>松本市長、ありがとうございました。</p> <p>引き続き、食育推進コンソーシアム第1回会議を開会します。</p> <p>本会議の司会をつとめさせていただきます、保健センター所長 牧田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日も、会議録作成のため、録音を行っておりますが、会議録作成後に消去させていただきますのでご了承ください。</p> <p>それでは、これから、次第の2議事に入らせていただきます。</p> <p>これまでに、「食育推進コンソーシアム会議準備会」を2回開催させていただき、第二次和光市食育推進計画の内容、生活習慣病予防や重症化予防のためには、全てのライフステージに共通する減塩・減糖での健康づくりに重点をおき、今後の取組などについて説明させていただきました。</p> <p>本日は、第1回目の会議ということで、具体的な実行に向けた話し合いを行っていきたいと思います。</p> <p>それでは、(1)「要個別支援(生活習慣病リスクあり)に対する地域一体型の減塩・減糖の取組」について、保健センター管理栄養士の佐藤よりご説明申し上げます。</p>
事務局	<p>第1回会議より担当いたします健康保険医療課 管理栄養士の佐藤です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、お手持ちの資料に沿って、説明させていただきます。</p> <p>最初に、資料(1)をご覧ください。</p> <p>前回の準備会では、すべてのライフステージに対して減塩・減糖を主とした生活習慣病予防の取組が重要であることについて説明させていただきました。その中で、最優先で始めていきたい取組が、メタボや、妊娠・高齢に伴い高血圧や糖尿病を発症している方など、比較的、健康度が低く、個別支援が必要な市民に対する取組です。いわゆるハイリスク対象者への取組となります。</p> <p>資料(1)については、「生活習慣病のリスクのある市民に対する取組のイメージ図」を示しました。左下の部分が食育推進コンソーシ</p>

アム会議を表しています。以前の意見交換資料の中で皆様から挙げていただいた減塩・減糖の取組について、現状で行っている取組と今後実施できるのではないと思われる取組を、左上枠内には市の担当課や相談支援機関での取組、右下枠内にはスーパー・コンビニ等民間事業者での取組をまとめており、これらを有機的に結び付けていくものです。

まずは、現在スーパー・コンビニ等民間事業者で行われている取組について情報を整理し、市や相談支援機関では、対象者に応じて栄養マネジメントとしてケアプランの中に組み込むことにより、民間事業者の商品を活用して市民の食生活の改善を図っていきます。一方、民間事業者の皆さまには、対象者が来店された際にわかりやすい商品の案内、組合せ例の提示や成分表示、レシピ提案という形で対象者の食改善のバックアップをお願いしたいと考えております。今後、バランス弁当や減塩・減糖の商品を拡充する、また外食産業など新規事業者にも加わっていただくことにより、より一層、個別ニーズに合わせた支援が行えるのではないかと考えています。

ここで、市で行うケアプラン化の具体例として、メタボリックシンドローム予備群の方を対象とした特定保健指導での個別支援について説明いたします。

資料（１）－１をご覧ください。

こちらは、40歳代単身男性の支援計画の一例です。

この方は、和光市国保の特定健診という健康診断を受診した結果、肥満に加えて中性脂肪と血圧が高めで、メタボ予備群として積極的支援の対象となっています。

表には、対象者について、左から現状・課題・対策・目標の順で記載されており、本人の意向を踏まえながら、肥満の解消と食事や運動など生活習慣改善のための支援を行っていきます。

この方の場合は、食生活の乱れ・運動不足・飲酒が課題として挙げられます。そして、この方に対する今後の対策を検討するに当たり、食事摂取状況については、この食育推進コンソーシアム会議の減塩・減糖の取組を活用することができます。

例えば、中央部分に【課題に対する具体策】がありますが、この方については、インスタント味噌汁を減塩タイプに替える、週〇回は昼食をコンビニのバランス弁当にするなど提案を行うことができます。その際、先ほどの民間事業者における取組事例の紹介し、これらの取組を活用した支援計画を立てていきます。一番右側の【支援計画】をご覧ください。例えば、バランス弁当を利用する、食品や料理の組み合わせ例や表示を活用するなどのプランをたて、実際にこの方に取組んでいただくこととなります。このような栄養マネジメントを実施し

事務局	<p>ていくことで、食習慣を改善する一つの手法として、今回の民間事業者の皆さまの取組を取り入れていくものです。まずは、今回の民間事業者の皆さまとの連携の第一歩として、この特定保健指導の部分を進めていきたいと考えております。</p> <p>次に、資料（１）－２をご覧ください。今年度の特定保健指導の実施予定を示しております。</p> <p>対象者は、国保で、昨年度特定健診の受診結果より特定保健指導の対象者となり昨年度保健指導を実施していないの方約 400 名です。スケジュールとしては、今月から初回面談を開始し、定期的に実行・達成状況のモニタリング、手紙や電話などでアドバイスを繰り返し行いながら、半年間の指導において、目標の達成を支援していきます。特に、３回目の 11 月の支援では、健康教室を開催し、食事講話なども実施される予定です。この時点において、今回の民間事業者の皆さまにおける取組等をツールとしてまとめたものを活用できるようにするのが最もよいスケジュール感ではないかと考えております。</p> <p>つきましては、この 11 月までに、スーパー・コンビニ等民間事業者の皆さまには準備を進めていただきたいと思います。具体的には、取組の内容の整理と対象者が来店した際にわかりやすい商品の陳列や案内などご対応いただくことが必要かと思っております。また、意見交換資料の中で「今後実施しようと思っていること」として挙げていただいた取組についてもぜひ実現に向けて進めていけるようご協力いただきたいと思います。</p> <p>この点については、具体的な動きとなってまいりますので、今後事務局より連絡を入れさせていただき、個別に協議をさせていただきたいと考えております。</p> <p>また、相談機関等の皆さまには、民間事業者様の取組をまとめた段階で情報提供させていただきます。対象者の自宅と民間事業者様との地理的な問題、対象者の生活習慣の問題など様々な部分があると思いますが、対象者の方がどのサービスを利用できるのか、利用することで効果の大きいサービスは何かなどをご検討いただき、今後のプランの作成などに活用していただきたいと思いますと考えております。</p> <p>以上が、（１）の説明となります。</p> <p>今、佐藤から説明申し上げました内容についてのご意見、ご質問をお願いします。なお、11 月を目途に、実施の体制を準備してまいります。今後は、具体的な事業所等との協議が必要となると考えております。本日以降、個別に調整、協議を進めさせていただきたいと考えております。</p>
-----	---

<p>ぼけっとステーション 山口 事務局</p>	<p>それでは、ご意見等お願いいたします。 ぼけっとステーション様。</p> <p>特定保健指導の 413 人の方対象に個別の取組をやるということですか？</p> <p>その方を対象に取組をやるというよりは、保健指導をするにあたってケアプランなどを立てることになりますので、その際に食事摂取状況について、こちらで取組んでいる内容について活用をしていきたいことです。</p>
<p>池田屋 事務局</p>	<p>保健センターで保健指導するときこういったものがありますよというように、つなぐというですか。</p> <p>今おっしゃっていただいたように、市や相談支援機関の方で活用できる商品についてのご案内をして、市民の方が実際にお店のほうに行かれた時には、そういった商品が分かりやすいような陳列にさせていただくとともに、民間事業者等側でも出来る取組の中で支援をしていただきたいというものです。</p>
<p>ぼけっとステーション 山口 事務局</p>	<p>413 人にそれぞれに取組をしてその方の対応をするということですか。</p> <p>あくまで個別支援の一例なので、今申し上げたのはメタボの方の場合についてですけれども、妊娠期や高齢者、それ以外の中にも個別支援が必要な方がいらっしゃるの、そのような方にも同様の実施をしていきたいと考えています。こういった形でケアプランに組み込んでいくのかを示す例として、今回メタボリックシンドローム予備群を出させていただきましたけれども、ライフステージそれぞれ市の担当や相談支援機関ありますので、そちらのほうでも同様の実施していただければというところなので、実際の人数はもっと大きいということです。</p>
<p>事務局</p>	<p>補足をさせていただきます。</p> <p>413 名というのは平成 28 年度の保健指導の対象者人数で、平成 29 年もやっておりますので、これは今後も続いていくということで人数もどんどん増えていくと思います。それで一例と申しましたのは、例</p>

	<p>えば、ぽけっとステーションさんでも栄養マネジメントを色々やられていますし、包括の方でも高齢者のケアプラン作る中で、栄養に関する取組をやっていると思います。例えば、個別にこれから色々な指導をやっていただく中で、民間でこういうことをやっているといったようなメニュー表や一覧を作成して、市の相談とか、保健指導だけではなくて、色々食育で動けるような機関の中でこういう形でまとめたものを活用できないだろうかという形でのご提案をしていくということです。また民間の中でも、先ほど市長の話しでも外食等出てきました。またこのコンソーシアム会議に参加したいというところがあればこの輪をどんどん広げていってよい循環になればと思っております。</p>
事務局	<p>他にございますか。</p>
中央地域包括支援センター 川淵	<p>ケアプランについてですけれど、こちらが高齢者に勧める商品ということはどうやって伝えていくのでしょうか。</p>
事務局	<p>高齢者のように一緒にお買い物行ったりできれば、直接ご案内ができると思いますが、必ずそのようにできるといったところではないので、もちろん、対象者の方が行ってすぐ分かるような表示や陳列にさせていただく必要があります。対象者の方には、ここにはこういう商品があるということをお話をしていくような形で進めていくようになります。そういうことを今後事務局と事業者様とで調整をして情報をツールとして活用できるようにまとめていきたいと思っておりますので、それを使ってご案内していただくという形になるかと思っております。</p>
事務局	<p>他にございますか。セブンイレブンさんの方でご意見等ありましたらお願いします。</p>
セブンイレブン 岡崎	<p>セブンイレブンの方でも、減脂・組み合わせなどは色々行っていますが、特に「すこやか御膳」を皆さんに勧めています。コンピューターや電話でも注文できるのですが、分からない方も多いので店のほうにパンフレットを置いてあります。ただ私も食べたことがあるんですけども、このメニューは食べ続けていただかないと効果が出ないようです。そういったことも年配の方にもお話してるんですけど、なかなか難しいようです。お客様からは買いに行かなければいけないのが面倒というようなご意見がありまして、配送なども考慮してい</p>

	<p>ます。ただせっかく良いものですし、月に一回新しく出てきますので、皆様に試食していただいて直接パンフレットを見せながら勧めています。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。いなげやさんお願いします。</p>
いなげや酒巻	<p>私どもスーパーマーケットは、どうしても売れる商品をたくさん作りますので、和光市の場合は若い人、30代のお客が多く、どちらかという味付けも濃いもの、肉の商品が売れるんです。シニアが多いお店に関しては、栄養バランス弁当、減塩のお惣菜を出しています。PR、取組がなければ売り込むのは非常に難しい状況があります。ですけど、この趣旨に沿っていけば、健康に配慮した商品を作っていく、ご提供できれば売る側も買う側もWINWINの関係になると思うんですね。</p> <p>消費者としては、保健指導413人が対象なのでしょうか。例えば、広報を通じて「こういう取組をしていますよ」と広くPRしていただければ、こちらが該当する商品、生活習慣病を避けるような商品を製造することができます。ふつうのPRでは意味がないと思いますし、どういった形でPRの促進をしていただいてこちらがそれに対して対応するのか、そこが知りたいなと思います。</p>
事務局	<p>先ほど説明した資料1では、個別指導が必要な方に対してということでお話させていただきましたけれども、このあと資料2の中で、そうではない方、リスクがない方へのアプローチの仕方ということでお話させていただきますが、そういった方たちに対しても予防という意味では非常に有効な商品になると思いますので、その方たちについても広報等でのPRを入れていき、広く市民の方には利用していただけるような取組をしたいと思っています。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。続いてイトーヨーカドーさんお願いいたします。</p>
イトーヨーカドー 一 遠藤	<p>今お聞きした中で思いついたことなんですけれども、例えば健康指導の中で、おすすめ商品、こういうのが減塩減糖だよと紹介するに当たって、いなげやさん、コンビニさんなどと同じ商品、例えば和光市推進おすすめ商品というような決まったシールなり飛び出すポスターなりができれば、どこのお店に行ってもその商品を見て、説明を受けたものと分かりやすく買いやすいと思います。</p> <p>あと、資料の支援・提案のところ、飲酒の代わりに炭酸水で代替</p>

	<p>と記載されてまして、とても良い提案だなと思います。ちょっとお酒を飲んだ気分を味わえるというのもポイントかなと思います。また池田屋さんの出汁でうまみを取ってあまり塩分・糖分を取らないようにできるものがあれば、そういうものも代替としてお勧めだというのが一目で分かりやすくないようにできればよいのかなと思います。</p> <p>11月の中旬のモニタリング・アドバイスの健康教室に関しまして、前回お話した時と同じようにスペースがございましたので会場として使っていただくことができます。ただ食に関しますので、保健所に1ヶ月前くらいには報告が必要ということでした。内容、人数等について、報告して改善できるのであれば、それと連動して各店舗、各売り場と進めていけるとと思います。ご検討いただければと思います。以上です。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。 中央地域包括支援センターさん、お願いします。</p>
中央地域包括支援センター 川渕	<p>高齢者の方に易しく説明するには可視化が大事なので、体重、塩分等数字化したもので分かりやすくお示しできれば良いのではないかと思います。それに関して提供側がたくさん増えていけば利用しやすくなるのかなと思います。また、こういうところにこういう物があるというのが市民に分かるようになるといいのかなと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。続いて南地域包括支援センターさん。</p>
南包括支援センター 岩田	<p>個別で保健指導していく上で、料理を作る作らないのところですが、メタボ本人が作るのではなく、その配偶者の方が作る際にはどういうアプローチで行くのでしょうか。それとこのメニュー等を実際に利用したかというのはどのようにして把握していくのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの具体例というのは単身の男性の方を例に出させていただきましたが、自宅で料理を作る方という場合には状況に応じたアドバイスや支援が必要になるかと思います。実際にそれを利用したかというのは本人に直接、確認するしかないのかと思います。個別支援をしている方であれば実際にこのプログラムを実施することによって何キロカロリー減りますよ、何ヵ月後には何キロ減りますよといった支援計画になっていますので、達成されていない場合には実際に活用させているのかどうかといったところをチェックしていくようになるのかなと思います。</p>

	<p>今回特定保健指導については直接本人に指導するというのが基本となっているのでこういった形なんですけれども、そうでない方、調理担当者が誰になるのかというのを確認したうえで、奥様に対するアドバイス等必要があるのかなと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。北第二子育て世代包括支援センター水澤さんお願いします。</p>
北第二子育て世代包括支援センター水澤様	<p>実際、妊娠性高血圧の妊婦さんがいたりしますので、そのような方には栄養のケアをしたり、産後は離乳食について、お母さんたちの中には離乳食をどのように進めたらよいか不安や悩みを感じている方がいるので、その部分の支援をしています。特に産後は食事作りが負担になるので、短時間でできるものを提案したりしています。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。そのほかにありますでしょうか。なければ今までのところは生活習慣病リスクあり（ハイリスク者）の取組のところを説明しました。続きまして、資料（２）「市民一般（生活習慣病リスクなし）に対する地域一体型の普及・啓発の取組」について、事務局よりご説明申し上げます。</p>
事務局	<p>では次に、資料の（２）をご覧ください。</p> <p>先ほど、資料（１）では、生活習慣病のリスクがある市民に対する取組について説明いたしました。ただいまから説明する（２）については、若年層や、現在は生活習慣病リスクがない市民、また社会保険の加入などで市の健診等では介入が難しい市民に対して、どのようにアプローチしていくかという内容になります。</p> <p>現在も皆様には食に関する教室・イベント等を実施していただいています。健康や生活習慣病予防に視点を置いたイベント等については地域ぐるみで実施をしていきたいところです。</p> <p>例えば、20～50歳代は乳幼児あるいは小中学生の親の年代でもありますので、こどもも含めてファミリー向けにうす味や野菜摂取を実践してもらえようなイベントを行うことが考えられます。また、図の右上の部分ですが、食文化や農業関係においては、食への興味・関心を高めるとともに、「日本型食生活と減塩」を組み合わせる、地産池消であれば、採れたてで栄養価の高い旬の野菜をおいしく食べてもらう、素材の味を生かしながら少ない調味料で味わってもらうなどのように「地元野菜のPRと健康メリット」をつなげた形でのイベント実施が可能なのではないかと考えております。</p>

	<p>また、図の下段の部分ですが、市民の主な食品購入先であり、特にアプローチの難しい単身層では中食・外食の利用が多い状況があることから、コンビニ・スーパー等の民間事業者での取組はとても重要と考えています。</p> <p>例えば、市の事業の一環として、毎月19日の「食育の日」に合わせて「野菜プラス1皿」をテーマに、副菜のサービスや野菜特売等により野菜摂取増加の啓発を行ったり、「減塩・減糖」をテーマに試食販売やメニュー提案、特設コーナーを設けるなど、イベントやキャンペーンという形で地域ぐるみで実施することができるのではないかと考えております。</p> <p>市としましては、各民間事業者、団体の取組などについて、広報等で積極的にPRを行うことにより、広く市民に普及できるのではないかと考えています。</p> <p>こちらの内容につきましては、今回は事務局で考えた例となります。今後どのような形で実施できるのか、次回以降の食育推進コンソーシアム会議の中で、さらに具体的な協議を進めていきたいと考えております。</p> <p>(2)の説明は以上です。</p>
事務局	<p>それでは、説明申し上げました内容について、ご意見、ご質問等をお願いいたします。</p> <p>また、ただいまの説明については、一つの例でありますので、その他にも様々な取組があるものと考えております。まず、優先順位としては、先ほどの(1)について取組んでいきますが、ただいま説明しました(2)、広く市民に対する活動に付きましても順次協議し、実施できるものから取組んでいきたいと考えております。</p> <p>その他に、各事業所において、こんなことができるなど、ご提案などもいただければと思います。ご発言をお願いします。</p>
ぼけっとステーション 山口	<p>ここまでいったらわかりました。</p> <p>リスクがある人、生活習慣病の人もあるけれども、高齢者もいるし、子どももいるし、ケアプランのある人もいて、その人たちにも使えることをやっていく。またそれに合わせて、プランを持っていない方にも取組んでいくということですね。</p> <p>プランを持っていない方だと、色んな理由をもっていると思うので、減塩・減糖・減脂など当てはまらない方もいらっしゃると思います。それぞれ違う方に対しても考えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。続いて食文化研究会さんをお願いします。</p>

食文化研究会 加藤	私どもは今年はずくあんを作り、保育園と幼稚園には一年を通して無農薬の小麦栽培をしています。
事務局	ありがとうございました。続いて農業後継者クラブさん。
和光市農業後継者倶楽部 並木	<p>農業後継者クラブとしては今年新しく西洋野菜の試験栽培を産業支援課さんとやっています。レシピの提案などにも幅が広がるのかなと思っています。</p> <p>先ほどもあったんですけど、PRの仕方について、シールであったり、やり方は色々あると思うんですけど、取り組みの中で食育独自のゆるきゃらを作ったらいいかと思います。つまり誰が見てもこのゆるきゃらの商品は減塩減糖と分かるようにです。わこうっちだとすでに様々なところで使われていて分かりづらいので。それと普及啓発というところでは、進研ゼミのような小さいマンガの冊子というものはどうでしょうか。私の妻のように、字は読まないけれどもマンガなら読むという人もいますので、分かりやすいのではないかなと思います。以上です。</p>
事務局	ありがとうございました。続いてオリジンさん。
オリジン赤羽	<p>地域一体型の啓発の資料の方についてですが、これは減塩減糖にしていくのか、それとも健康そうなものであれば何でもいいということなのかということ、これは良いことだから永遠にやれという話なのかということを確認したいです。達成基準、目標指数というのが民間でやるのにはあまりにも大きすぎて、良いことなのでやるならやるで結構ですけど、永遠にやれとなると、息切れしてしまうと思います。どういうことを目標としていて、期間はどのくらいでお考えなのでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、第二次の食育計画というので実施をしていますけれども、次年度には第三次の計画に移ってまいります。第三次の計画が健康わこう21に統合され、健康わこう21の10年計画にあわせて進んでいきます。5年後の中間報告がございますので、まずそれに目処に実施をしていくことになると思います。いつから実施をするのかについては今すぐ出来るものではありませんので、今年度中に計画を立てていき、年度を挟みまして第三次に入る来年度以降具体的に実施をしていければと考えております。</p>

オリジン赤羽	そうすると地域一体型普及啓発については、来年度以降、計画を立て始めるということになるのでしょうか。
事務局	今計画を立てている段階なので、はっきりそうですという風にお答えすることが出来ないんですけども、そのような見込みで考えております。
オリジン赤羽	減塩、減糖についてもこれからということですか。
事務局	第二次につきましては減塩減糖というところをテーマにしておりますので、まずはそこでやっていくということけれども、高血圧ですとか糖尿病も野菜摂取の部分も重要になってきますので、そこを入れるかどうかということも次年度に向けた計画策定の中で盛り込んでいけたらと考えています。ただどこまでがその商品になるのかという線引きがかなり難しくなる可能性があるので、それについては皆さんと検討していければと思います。
オリジン赤羽	商品というのは、地域一体型普及啓発というところもあるし、保健指導というところと両方に対してという形ですか。
事務局	そうですね。基本リスクがない方に対する取組というのはより広い形での実施になりますので、減塩減糖に限らない部分もやっていく必要があるかなと思います。
オリジン赤羽	(健康なものとしてどこまで該当するのかという判断はどのようにするのでしょうか。)
事務局	それについてはどちらに関してもなんですが、ライフステージや健康度によってご本人にとって本当に適切なものなのかどうかといった判断を市民の方ご自身では出来ない場合もあるので、普及啓発として実施する場合も、ある程度、出していいものかどうかという精査は必要かなと思います。
オリジン赤羽	保健指導 413 人のうち全員が対象という認識でいいですか。
事務局	対象者皆さんにお話はしますが、実施率が 100%ではないので全員が参加というわけではありません。ただ、個別支援をしていくということについて、特定保健指導を一例に挙げましたけれども、それ以外のライフステージのところで、各担当課においても対象者に応じた個

	<p>別支援等実施していますので、413人だけが対象ではないとお考えいただけたらと思います。</p>
オリジン赤羽	<p>その方たちにも販売促進をしていただけるのでしょうか。こういうことをやっているよと販売促進をチラシなどで集客していただけるのでしょうか。</p>
事務局	<p>その方の生活状況を見て適切かどうかをご説明をした上で、ということになりますけれども案内することになります。</p>
オリジン赤羽	<p>400人だけだと頑張りがいがないといいますか、400人のうちおそらく感心がある方は20%くらいで、80人くらいだと見込んだ場合、使われるのが自社の商品だけではないですので、商品開発までしてそれに見合うかといわれると、対象が数が非常に少ないというふうに感じます。</p>
事務局	<p>無理して作ったけれどそれが売れなかったらというのもあると思います。民間事業者ではこういうものをしていて、先ほど食事だけではない運動等色々組み合わせてもらって、皆さんが今しているものの中で出来そうなことで使っていくということです。例えば南地域に住む人がオリジンさんまで足を向けるだろうか、いつもイトーヨーカドーさんしか利用しないとか、地域性もあると思います。今回ひとつのきっかけとして、対象者の方が食育というものに目を向けていただいて、今回のプランの中で例えば体重を減らすとか、そういった目標に向かっていってもらって取り組みたいというところですので、今後個別でこういうことができないでしょうかと各事業者の皆様、民間の方々には調整をさせていただき、その中でこれだったら出来るのではないかとということを見出していければと考えています。それから今後、子どもの支援の数とか、高齢者の方、413名以外にもどんどん増えていくのではないかと思います。まず413名で動いていく、民間の事業者様と調整し、メニュー等出来た段階で、子ども高齢者それぞれの相談支援の方にこういうものが出来たということでそれをどんどん取り入れてもらって増やしていきたいと考えております。</p>
事務局	<p>よろしいでしょうか。続いて池田屋さん、お願いします。</p>
池田屋	<p>池田屋では、一般の消費者には公民館などでだし講座をやっております。</p> <p>小中学校、学校でも保護者の方に向けて、学校給食の味を食べても</p>

	<p>らいながら、話したりしています。小学校5年生の家庭科の授業で、味噌汁の作りかたをやります。その時に教科書では煮干のだしのとり方なので、栄養士の先生と、かつをぶしのだしのとり方について、実際に飲んでもらって、だしのことを教えています。</p> <p>講座の開催方法は、出張だし講座を行ったり、流れでくるお客さんに対してその場でいかがですかという形でだしを体験してもらうなど、ケースバイケースで実施しています。もし依頼があれば、1ヶ月くらい前に言っていただければ用意ができますので、だしに関する講座を行うことができます。だし講座で一番気をつけているのは、楽しくないと続かないということをお気をつけています。</p> <p>保健センターの生活習慣病のリスクありリスクなし両方に関していえるのは、動機付けというものをどういう風に強く思ってもらえるのかというところが1つなのかなと思います。押し付けのように紹介してもなかなか腰が重かったりするので、達成感を得て、楽しめる方法がえると良いと思います。例えばイトーヨーカドーさんなどで推奨する商品を買ったときに、ポイントがたまるような物を作ったらどうかと思います。何月何日に買いましたよというようなそういうものを作ったり、85キログラムの体重が75キログラムに痩せることができたとか、そういったものを作って達成した暁にはご褒美のようなものがあったりとかすると面白いのかなと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。ひまわりさんお願いします。</p>
ひまわり石田	<p>ひまわりでは、当初、惣菜や弁当の占める割合が20%だったのが50%以上になりました。購入層が1人世帯、高齢者が多くなってきました。旬の野菜を使ったものを提供させてもらっています。皆さんから味がやさしいねと、味が薄味でいいよと言われてるんですね。あえて味を薄くしている訳ではないんですが、野菜の力をかりて、料理を地産地消でやっています。ウエルカム事業で下新倉で週2回高齢者対象に最後に10分間食育をやっていて、和光市の旬の野菜を使って、一品出しています。火を使わないもので提供させていただいています。皆さん美味しいとおっしゃってレシピを欲しいとおっしゃってくださいます。皆さんにレシピ作ってお配りするというのがこれからの課題と思っています。先ほど農業後継者倶楽部さんもおっしゃっていましたが、こういう事業を市でやっているよと、プリントでもいいですし、冊子を作って、一人一人にお配りするのでもいいのかなと思います。ひとりひとり顔を合わせてコミュニケーションをとって販売していますので、お伝えしていけるのかなと思います。</p>

事務局	<p>ありがとうございました。皆さまからいただいたご意見について、事務局において検討し、更に次回以降の会議でも協議を進めてまいりたいと思います。</p> <p>最後に、(3)「ライフステージごとの課題と現状の取組」について、事務局よりご説明申し上げます。</p>
事務局	<p>では、資料(3)をご覧ください。お手元のA3両面の資料になります。</p> <p>こちらは、縦軸にライフステージとして「妊娠期」から「高齢期」の区分、横軸に食をめぐる現状と課題、考えられる具体策、現在コンソーシアム会議に参加されている事業者、団体の皆さまが実施している取組について、まとめたものです。</p> <p>一番下の枠の部分には、市内の小学5年生・中学2年生対象に実施した食育アンケート、昨年度20歳以上の市民対象に実施した絆調査での数値を一部挙げております。これらの結果も踏まえて表には現状・課題を記載しています。</p> <p>本日は今年度中にスタートしていきたい取組について説明させていただき、ご意見等を伺ってまいりましたが、生活習慣病の発症・重症化に係る「食塩や砂糖のとりすぎ」、「野菜不足」の他にも、「朝食の欠食やその内容の問題」、「こどもの孤食」、「若年女性のやせ」、「高齢者の低栄養」など、取組むべき課題は多くあります。また、18～39歳の高校生や青年期のように、行政の力だけでは介入が難しく、取組が十分に行えていない年齢層があることがお分かりいただけるかと思えます。</p> <p>今後、食育推進コンソーシアム会議の中で、このような課題につきましても、記載されている取組を有機的に結びつけることで解決できるものはないか、新たな食育に関する取組を立ち上げる必要があるのかなど、具体的に検討し、実施していきたいと考えております。</p> <p>今回示しました内容の他に、既に、取組まれていること、お感じになられている健康課題などございましたら、後ほどで構いませんので、事務局までお願いいたします。</p> <p>(3)の説明は以上です。</p>
事務局	<p>(3) つきまして、ご意見、ご質問などありましたら、ご発言頂きたいと思えます。</p>
長寿あんしん課	<p>一番最初の議題が生活習慣病のリスクありの方の話だったんですけど、今回はライフステージごとに考えて欲しいというご提案ですか？</p>

事務局	<p>今回は健康度に分けてお話させていただきましたけれども、ライフステージごとにもそれぞれ課題がありますし、担当課ごとに個別の状況に応じた支援に併せて、ライフステージごとの課題の部分についても今後取組を進めていく必要があると考えます。</p>
長寿あんしん課	<p>これから、各事業者様とどうやって減塩減糖を進めていくのかお話を進めていくと思いますが、今日はテーマが比較的生活習慣病リスクありの人ということだったんですけれども、リスクのある人に限らず、お子さんの場合とか対応していく、これも個別に協議をしいていくのでしょうか。</p> <p>1 1月までに何をすべきかという話を事業者様と個別に相談していくということですが、これは生活習慣病リスクありの人についての話であり、低栄養とか、その他はどうしていくのでしょうか。</p>
事務局	<p>まず最優先で始めていくものは先ほど申しあげました生活習慣病リスクありの方への取組です。こちらで挙げているその他の生活習慣病以外の方、孤食の方等につきましては第三次の計画に入ってから随時スタートしていきたいというところです。</p>
長寿あんしん課	<p>長寿あんしん課では高齢者の介護予防ということで実際にウェルカム事業とかで事業者さんには入っていただいています、介護予防ということで低栄養になるとは思いますが、減塩、減糖、減脂、すごく大事になってくるので、それ込みでこういった食育推進に取り組んでいます。これはご提案ですけれども、ある程度事業者にももう少し数というのを示していただくとお店としても多少うまみというか、全体的には食育推進コンソーシアム会議なので全体でやっていきたいと思いますというのがメインでしょうけれども、特定保健指導だけではないところでもっとお示ししていただければなと思います。</p>
事務局	<p>本会議の中でツールとしての情報を取りまとめ次第、事業者様にも情報提供させていただきまして、随時保健指導以外のプラン作成でも取り入れていただけるよう実施していきたいと思います。</p>
事務局	<p>ほかにご意見ございますか。</p>
ぽけっと山口	<p>11月に事業を実施するということですか？</p>
事務局	<p>今年度にコンソーシアム会議の中で何か事業をするというわけで</p>

	<p>はありません。</p>
ぼけっと山口	<p>では、11月中旬に向けてというのはどういうことですか。</p>
事務局	<p>特定保健指導等の個別支援で実際に使っていくにあたり、その対応の準備を随時始めていきたいということです。</p>
ぼけっと山口	<p>食育推進コンソーシアム会議には関係ないということですか。</p>
事務局	<p>全体に係る事業として実施するということは、第三次計画以降での実施を考えています。</p>
ぼけっと山口	<p>ではどんな感じで進むのかスケジュールを提示していただければ分かりやすいと思います。この会議で何をするのかとか。</p>
事務局	<p>次回の会議までには作成したいと思います。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、食育推進コンソーシアム会議発足式・第1回会議を閉会いたします。</p> <p>次回の会議開催は、11月頃を予定しております。決定しましたら、事務局よりご連絡をさせていただきますので、ご出席のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございました。</p>